

# I-241 地震時地中埋設管の挙動に関する研究1

東京瓦斯(株)総合研究所 西尾宣明  
" " ○塚本克良

## 1. まえがき

地中埋設管の地震時挙動については、近年各研究機関で研究が進められ、埋設管の地震時応答は概ね地盤の挙動自体に支配されているといふことが報告されているが、実際の地震時の埋設管の挙動を観測した例はまだ数少ないといえる。このため本実験は実物大の埋設管(鋼管 150mmφ, 400mmφ 鋼鉄管 150mmφ)について実際の地震時の挙動を観測し、埋設管耐震設計上の基礎資料を得ようとするものである。

今回、ここで報告するものは当社旧横浜工場内での観測と、草加整圧所構内での観測についてのものである。

## 2. 実験概要

### 2-1 横浜での地震観測について

実験場の地質断面図を図-1に示す。地盤は土丹層が10数m以深にあり、その上に砂礫層が存在し、更にその上に粘性土を挟んだ砂質土の表層部がある。下部地層は8%の勾配で南西海側に傾斜している。当地表での常時微動測定の結果、地盤の卓越周期は0.47secであることが分っている。

実験場内の図-2に示す位置に150mmφ鋼管1本(全長153m、ベンド部有り)と150mmφダクタイル鋳鉄管2本(G型継手管、TM型継手管、全長110m、直管)を土被り1.2mで埋設し、地震時の管体加速度、管体ひずみ、地盤加速度、土圧を測定した。計測及び記録は地震時自動計測装置(共和電業製上台・50ch, IMV製2台18ch)によって行なった。

### 2-2 草加での地震観測について

実験場の地質断面図を図-3に示す。地盤は表層部が砂層とシルト層の互層になつており、23m以深よりN値50の砂礫層が存在する。

当地表での常時微動測定の結果、地盤の卓越周期は0.53secであることが分っている。

実験場内の図-4に示す400mmφの鋼管について地震時の管体加速度、管体ひずみ、地盤加速度を測定した。計測及び記録は地震時自動計測装置によつて行なつた。

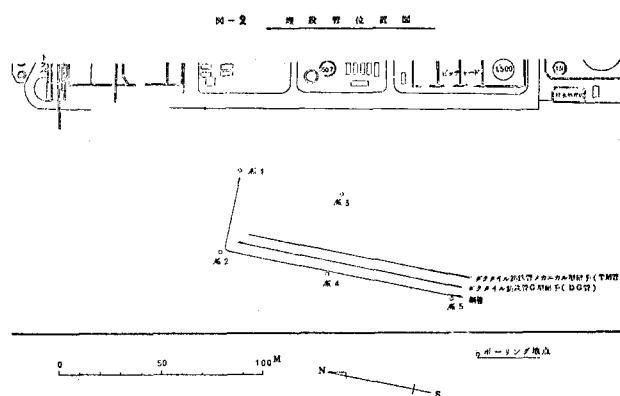
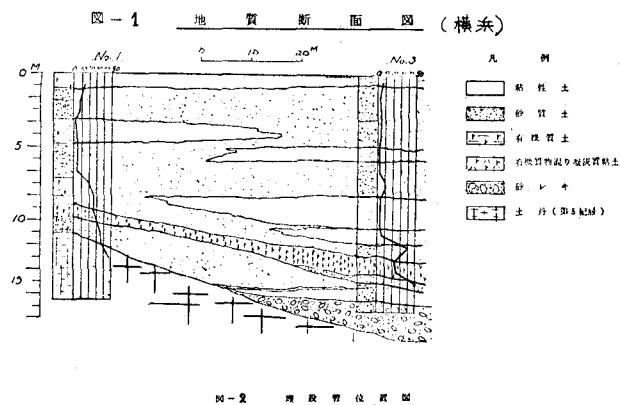
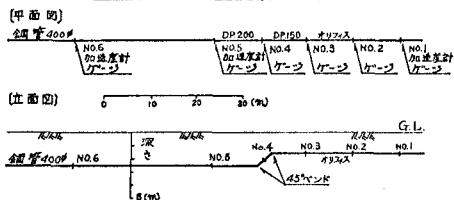


図-4 埋設管位置図



### 3. 実験結果及び考察

横浜と草加で観測された地震のうち代表的なものを表-1と表-2に示す。横浜で観測された地震のうち、管体最大軸方向ひずみが発生したのは'74年12月4日の八丈島近海地震のときであり、直管部中央より約7mベンド部寄りの位置で28.4μ ( $\sigma = 59.6 \text{ kg/cm}^2$ , 軸荷重1.5t) のひずみを生じている。草加で観測された管体最大軸方向ひずみは'74年11月30日の本州南方沖地震のときであり、No.上の位置で18.7μ ( $\sigma = 39.3 \text{ kg/cm}^2$ , 軸荷重3.9t) のひずみが発生している。

次に地震記録の例を図-5, 図-6に示す。図-5は八丈島近海地震の記録の一部であるが、地表と深さ4mの地盤の加速度波形と管体ひずみの波形の記録である。図-6は'73年1月21日の茨城県南部地震の記録である。

次に遠地地震と近地地震の波形解析結果を図-7と図-8に示す。

現在までの観測結果及び解析結果より次のことが分った。

- 1). 遠地地震・近地地震にかかわらず、埋設管のひずみには高周波成分は発生せず、4Hz以下が殆んどであり、特に地盤の卓越周期近傍のものがよく発生する。
- 2). 管体ひずみは加速度の大小には必ずしも比例せず、周波数特性によって支配される。

### 4. あとがき

今後も埋設管の地震時挙動の

観測を続け更に詳細に解明していく予定である。おりに、解析方法について貴重な御助言を戴いた埼玉大学学長岡本舜三教授と東京大学生産技術研究所田村重四郎教授に深く感謝致します。

- (参考文献)
1. 横井彰雄他「Dynamic Stresses of Underground Pipe Lines during Earthquakes」Proc. 4th W.C.E. '69
  2. 西尾宣明・塚本克良他「地震時ににおける埋設管の挙動に関する調査実験」東京瓦斯K.K. 総研資料 '73

表-1 潛定記録一覧表(横浜)

Earthquake No.	date	Location of origin N E	depth (km)	epicent. distance (km)	Magnitude	max. Acc. (gal)			max. strain ( $\times 10^{-4}$ )	n.b.
						N-S	E-W	U-D		
1	'74.11.5	千葉県西部 36°05' 139°57'	5.0	5.0	M=5.5 II	管体1.9	2.3	1.5	4.0	DN150# 直管部分
2	'74.11.5	八丈島近海 35°22' 139°58'	4.0	6.5	III	1.2.5	1.0.0	5.6	1.7.0	"
3	'74.12.4	八丈島近海 35°12' 140°05'	4.0	27.0	IV	2.6.12	2.6.12	1.1.5	2.8.4	"
4	'74.12.4	八丈島近海 35°31' 140°05'	6.0	8.0	4.1	—	—	—	1.2.3	DG150#
5	'74.12.4	茨城県内陸 36°05' 139°56'	2.0	6.5	4.6	1.3	6.6	1.5	6.7	"
6	'74.12.7	茨城県北西部 35°31' 139°56'	6.0	2.6	4.9	IV	7.3.7	5.9.8	1.6.9	TM150#

表-2 潜定記録一覧表(草加)

EQKE NO.	date time	Location of origin N E	depth (km)	epicent. distance (km)	Magnitude	Intensity Tokyo	max. Acc. (gal)		max. strain ( $\times 10^{-4}$ )
							N-S	E-W	
1	'74.10.31 9:32	茨城県東南部 36°05' 139°57'	6.0	35.3	4.6	II	41.5 <sup>c</sup>	12.3 <sup>c</sup>	
2	11:16 8:32	鹿児子沖 35°45' 141°15'	4.0	129.6	6.1	III	29.5 <sup>c</sup>	11.0 <sup>c</sup>	
3	11:30 7:05	本州東方沖 30°36' 138°46'	4.0	588.0	7.6	IV	33.8 <sup>c</sup>	18.7 <sup>c</sup>	
4	'75.2.20 11:41	利根川中流域 35°45' 140°07'	6.0	28.0	5.4	IV	43.8 <sup>c</sup>	13.6 <sup>c</sup>	
5	4:12 7:15	茨城県南西部 36°10' 139°56'	5.0	44.1	4.0	II	39.0 <sup>c</sup>	12.5 <sup>c</sup>	
6	4:18 3:41	茨城県東南部 36°08' 139°57'	5.0	36.4	5.0	II	20.2 <sup>c</sup>	7.3 <sup>c</sup>	

図-5 潜管 7.2.1.2.4 地震記録

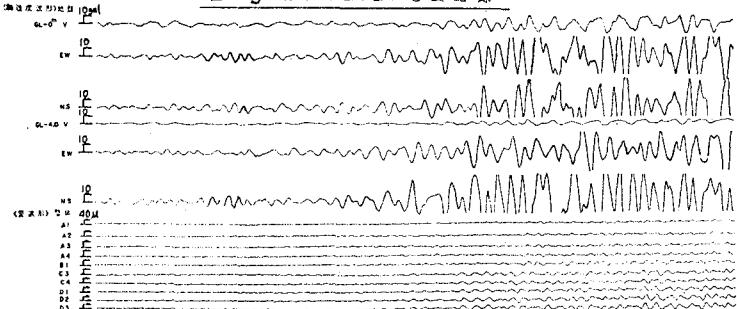


図-6 D G 管 7.3.1.2.1 地震記録

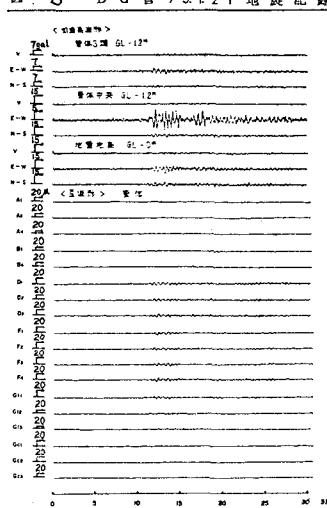


図-7 S. 4.7.1.2.4

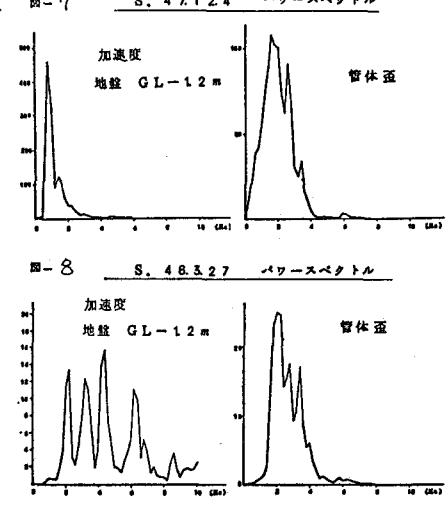


図-8 S. 4.6.3.2.7 パワースペクトル

